

Cyclamen (シクラメン) 育種マニュアル

- 原産地：北アフリカから中近東、ヨーロッパの地中海沿岸地域
- 科名：サクラソウ科
- 属名：シクラメン属
- 原種：Cyclamen persicum など15～20種ほど存在する
- 英名：Florist's cyclamen, Cyclamen
- 和名：かがりびばな、ぶたのまんじゅう
- 種子の大きさ：1gで約100粒、粒径2～5mm

1 これまでに育成された品種等

多くの品種が育成されていますが、品種登録されているものは一部です。

登録品種：プチマイルシルバーエッジ、シルバークラブパープル、シルバークラブレッド、
シルバークラブバイオレット

その他：バニーシリーズ、ユタカピアス、パピヨン、リップス、かぐや姫、天使のはねなど



「バニーオレンジ」



「天使のはね」

2 育種のポイント

(1) 種子から開花するまでの期間

10～12月播きで開花まで約1年です。幼苗期の2,5号～4号鉢の生育段階でGA剤を散布して開花させれば4～5ヶ月で花だけは見ることができます。

(2) 育種の方法

交配育種

(3) 育種の素材

シクラメンの野生種の染色体数は、 $2n = 48$ の2倍体ですが、現在栽培されている品種の多くは $2n = 96$ の4倍体のため同一品種内でも変異の幅があります。

一般的に母親（♀）より、父親（花粉♂）の形質の影響が強いです。

芳香性や黄緑色、鮮明な赤色など新たな品種を作り出すことが可能です。

(4) その他

開花調節剤のGA（ジベレリン）やBA（ベンジルアデニン）剤を使用すると、花粉が出難くなったり、開花の早晚や花形が分からなくなることがあります。

3 育種の実際

(1) 採種母株の選抜

交配させる株を選ぶ際の注意点は、以下のようなことがあります。

①健全な株を選ぶ

交配する株は、健全な状態であることは必須です。病気に感染した株では、せっかく受粉させて種を作っても、種が熟す前に株が枯れてしまったり、発芽力がほとんどない種が出来上がってしまうことがあります。

病害虫におかされていない元気な株を選ぶようにします。

②花色が鮮明で品種特性を発揮していること。

健全な株とも関連しますが、品種本来の特性を発揮している株を選定します。

自分好みの花形や株姿を選定します。

③芽の数が多く、株がしやすいこと。

芽の数が多くは花、葉とも多く生育旺盛で株ができやすく、栽培も容易になります。

④栄養診断（樹液診断）の活用

品種本来の特性を発揮させるためには、生育状況に応じた肥培管理をする必要があります。これまでは葉の大きさや色を見て判断していましたが、RQフレックスを活用して樹液診断することで生育ステージ別にシクラメンの栄養状態を測定し、施肥をコントロールすることができます。

ただし、八重咲きタイプのシクラメンは、雄しべが変形して花びらの形状となっているため、花粉が出ません。雌しべはついていることが多いので、交配するためには八重咲き側の雌しべに他の株の花粉をつける必要があります。

(2) 交配の時期

適期は、雨の日が少なく、空気中の湿気も少ない時期です。さらに昆虫による受粉を避けるため、虫の飛来がないことも条件になりますので、株が充実している11月から1月頃で花数も多く新芽の発生力が高い時期です。2月以降になると結果率が悪く1果当たりの種子数が少なく、種子重量が軽くなります。

(3) 花粉とりと受粉

シクラメンの花粉（♂）は開花7日前に発芽能力があり、白っぽい色をしています。

完熟した黄色になるには開花当日から3日目位までであり、この間に花粉を採集します。花粉の寿命は開花している状態で2週間ですが、デシケーターで貯蔵すれば5週間位は可能です。発芽温度は16～20℃が最適で25℃以上で発芽が抑制されます。15℃以下では発芽に長時間を要し、5℃以下では発芽しなくなります。

受粉方法は、開花後1～2日目の花の花梗を指でたたくと花粉が落ちます。落下する花粉を親指の爪の上に受け、花粉を開花している花の柱頭（♀）に爪で軽く触れると受粉することができます。

別の品種の交配に移るときはアルコールで爪を拭き、乾いたら再び交配します。また、大量の株を受粉するには小さな杯などに花粉を集め、耳かきのような竹べらに花粉をつけて、次々と開花している花の柱頭に受粉します。確実な受精を期すため、同一の花に2～3日置いて再度受粉します。

近年、選抜育種が繰り返されてきた赤系やビクトリアなどは5回位は交配しないと受精しないようです。

品種改良や一代雑種（F1）の種子を得るためには、自家受粉を防ぐために除雄します。除雄は開花1週間前の小さいつぼみの花弁をねじるように引っ張ると雄ずいが花弁の茎部についているので同時に取れます。

除雄した花には日付けを書いた袋をかけて他品種との交雑を防ぎ、袋にある日付けから開花時を判定して受粉します。（除雄すると結果率がかなり低下します）

受精した花は4～6日で落ちるので、外観で判断できます。その後、花梗が湾曲して子房がふくらんできます。



花粉を爪の上に取ります

(4) 交配後の管理

種子は、平均1さや50粒として1株15～20さや位つけ、中輪種で700～1,000粒、大輪種で500～700粒を採種目標とします。

登熟してさやが接地したり、葉に触れると灰色カビ病に罹りやすくなるので、風通し

をよくして針金の輪支柱を立てます。

(5) 種子取り

品種や交配時期によって完熟までの日数が異なるがパステル種で約 150 日かかります。熟してくると肥大して、さやの首元が柔らかくなり種子が飴色になります。

シクラメンの種子は粘液で保護されているので、さやを剥いて種子を取り出してから、よく水洗いして日陰で乾かし暗所に低温貯蔵します。直射日光に当てたり乾かしすぎると発芽が悪くなります。種を入れた袋には、湿気ないように乾燥剤を入れておきます。

長期間保存しておきたい場合は、夏が終わってから 10℃以下の冷蔵庫に入れておきます。



受精後に結実したさや

4 品種ができてからの注意

育種目的にあった品種ができてでも自殖（自家交配）を2～3年繰り返すと劣性になり、発芽不良、花形不良、葉数不足になるので戻し交配や混合花粉による交配を行ない品種を固定します。戻し交配等のために親株を数年保留します。

5 参考文献

- ・園芸植物大辞典（小学館）
- ・鉢花のプログラム生産（誠文堂新光社）
- ・農業技術体系（シクラメン）